

令和3年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数 1+2(%)	今年度 1+2(%)	昨年度 1+2(%)	成果と課題	改善策・向上策		
1 学習指導 「学ぶ子」	「確かな学力」 授業内容の工夫と改善	読書習慣の定着	教職員	・読書	90	86	83	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の木、多読賞をアピールし、本への興味を高めたり、図書委員会が各クラスへの読み聞かせを行ったりして、読書を啓発した。 ・高学年は、行事や委員会発表の準備等で朝読書の時間が減ったが、低学年は朝読書の時間に本に親しんでいる。 ・コロナ対策のため、図書室の本の貸し出し時間が減り、借りに行けない児童が増えた。授業中でも本を活用した学習よりタブレットで調べ学習をする時間が増え、本に触れる機会が減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の活動(読書の木、多読賞など)を委員会発表等で啓発していく。 ・図書室の本を学級文庫として配置し、学年に応じた色々な種類の本を読ませる手立てを行う。 ・親子読書など家庭での読書習慣が身につくような取り組みを実施する。 	
			児童	・読書	90	78	85			
			保護者	・読書	90	50	58			
		教職員	・わかる授業	90	100	100	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り活動に軸を置き、児童がわかる授業を目指してきた。今年度は、タブレットを活用した授業が増え、より視覚的に分かる授業が行えるようになった。 ・一人一台タブレットが導入されたため、児童の意見を全体で共有しやすくなった。 ・コロナ対策のため児童同士で考えたり教え合いをしたりする時間を確保しにくかった。また、学習内容の定着も図りにくかった。 			<ul style="list-style-type: none"> ・郷の子テストを継続して行い、基礎基本の定着を高める。 ・引き続き振り返り活動を通して、児童が自己の成長を実感したり、学び合いや深め合いに活かしたりしていきけるようにしていく。 ・一人一台タブレットを使った実践を共有し、ICT活用に関して学年ごとの系統的な学習計画を立てる。
		児童	・意見や考え	90	91	92				
			・授業理解	90	94	96				
			・話の聞き方	90	97	98				
		保護者	・自分の考え	90	92	90				
			・授業理解	90	88	89				
	家庭学習の習慣	教職員	・家庭学習	100		90	<ul style="list-style-type: none"> ・家で過ごす時間が増えたが、突然の休校やコロナ禍の不安感で学習に向かいにくくなった。 ・課題の量や内容も児童の負担を考え、簡単かつ少なくなり学習時間が減った。 ・保護者の方は、宿題の提出率がいいが、それ以外の学習の取り組みが少ないと感じているのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の方法を具体的に示し、より自分で自分の力を伸ばせるような児童を育成していく。 ・課題の量や内容を学年に応じて工夫していく。 		
		児童	・家庭学習	90	90	93				
		保護者	・家庭学習	90	66	75				
2 生活指導 「素直な子」	「豊かな心」 きまりを守り安全な生活	あいさつ・正しい言葉づかい	教職員	・あいさつ	90	95	87	<ul style="list-style-type: none"> ・校内でのあいさつは大変大きくなってきた。しかし、校外においては、声が小さく挨拶ができていない。 ・場に応じた言葉遣いができている。特に高学年は、教員や来客などに敬語で話すことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができていない児童を朝礼や集会などで紹介していく。 ・教職員が率先して挨拶を行っていく。 ・高学年が手本となり、正しい言葉遣いを推奨していく。 ・地域の人にも挨拶をするように、街頭指導等で声かけをする。 	
				児童	・あいさつ	90	90			92
			保護者	・言葉遣い	80	95	97			
				・あいさつ	90	83	80			
		児童	教職員	・言葉遣い	80	78	78			
				・楽しい学校生活	100	95	96			
				・廊下を走る	80	86	83			
			児童	・情報モラル教育	80	95	70			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、保護者が学校に来る機会が少なかったことで、子どもたちが楽しく活動する姿を見てもらうことが少なかった。 ・インターネットやSNSの使い方について、保護者の意見も聞きつつ、ともに考える必要がある。
	・楽しい学校生活			100	96	98				
	・掃除			90	95	98				
	・きまりを守る			100	98	98				
	保護者	・廊下を走らない	90	95	95					
		・スマートルールを守る	80	91	79					
		・楽しい学校生活	100	95	97					
		・ネットの約束	90	83	85					
いじめ未然防止	教職員	・スマートルールを守る	80	72	79	<ul style="list-style-type: none"> ・児童間での小さなトラブルはあるが、その都度、担任が両者の話を聞き、解決を行っている。また、解決が難しい場合には、学年主任や生徒指導主事、管理職などでチームを作り解決をはかっている。児童間でトラブルが解決した後も、保護者に連絡をして見守っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童間でトラブルが起こった場合には今後も両者の話をしっかりと聞き、早期解決に努める。 ・未然防止のために、ポジティブ教育等、温かい集団づくりに関する学習を、道徳や学活で、定期的に行っていく。 ・学期に1回のカウンセリング週間で、一人一人と話す時間をもつ。 			
		・いじめのない学校	100	95	100					
	児童	・人間関係に配慮	100	100	100					
		・友達仲良く	100	97	97					
		保護者	・いじめ不登校	100	91			90		
・学校の話をする	90		87	91						

令和3年度 坂井市立東十郷小学校 学校評価総合シート

項目	重点目標	回答者	アンケート項目	目標指数	今年度	昨年度	成果と課題	改善策・向上策	
				1+2(%)	1+2(%)	1+2(%)			
3 健康な生活「元気な子」	「たくましい心と体」	体力づくりの推進	教職員	・体力向上	100	100	87	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、「新型コロナ感染特別警報」が発令されている期間は、業間休みの「いきいきタイム」を中断した。その結果、体力テストにおいて反復横跳びや立ち幅跳びのように瞬発力を要する種目が、本県平均値より下回った。 ・体育委員会によるラジオ体操のお手本動画を「全国ラジオ体操コンクール」に応募したところ、「かんぼ生命 特別推奨」を受賞した。全校集会で表彰後にその動画を披露したことで、体育委員会の活動内容やラジオ体操に興味を示すきっかけをつくることができた。 ・2年前から導入したグーパー体操や柔軟に加え、瞬発力を高める簡単な運動を、体育の授業の準備体操に取り入れていく。 ・天気が良い日は、外で遊ぶ機会を増やせるように外遊びを推奨していく。 ・感染対策を徹底した上で、業間休みの「いきいきタイム」を継続し、児童の十分な運動量を確保していく。 	
			児童	・進んで運動	90	93	94		
			保護者	・体を動かす	90	71	75		
		健康的な生活習慣	教職員	・早寝早起き	100	95	87		<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに「にこいきチェック」を実施することで、児童が生活リズムに対する意識を高めることをねらいとしている。併せて、規則正しい生活習慣の大切さを指導していく必要がある。 ・一人一台のタブレット導入により、家庭だけでなく、学校でも電子機器に触れ目を酷使する時間が増えた。11月の視力検査でも、視力低下が著しい児童が多く見られた。適宜、目を休める時間を取り入れていくと共に、その必要性も十分に指導していかなければいけない。 ・児童の多くが長く続くマスク・手洗い生活の中で、気の緩みが見られる。児童だけでなく、保護者と教職員も感染状況に合わせながら、しっかり対策をとっていく。
				・食生活指導	100	95	83		
				・コロナ感染症対策	100	100	100		
			児童	・早寝早起き	95	87	90		
				・朝ごはん	100	99	98		
				・コロナ感染症予防	100	97	98		
	保護者		・早寝早起き	95	73	79			
			・朝ごはん	100	98	97			
			・コロナ感染症予防	100		96			
	4 開かれた学校づくり	「信頼される学校」	教育活動の発信	教職員	・学校公開・行事	95	100	100	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者回答では、昨年度より若干低下したが、全体的に高い数値である。コロナ禍により数々の行事が中止、縮小される中、できる限りの工夫をしながら学校行事、学校公開に取り組んできたことは理解を得られている。 ・情報発信、配布物に関しては、昨年同様に高い数値である。ホームページアクセス数も昨年に続き3万を越えているが、更新が減ったという保護者からの指摘もある。 ・コロナ禍の中、保護者の学校への関心は非常に高まっている。それに伴って、不安や要望も大きくなってきており、十分に対応することが難しい。 ・コロナ感染により臨時休業があったが、保護者からの苦情はほとんどなかった。学校からの情報発信やメール配信が適切だったと考えられる。今後も保護者の理解を得られるよう、効果的に行いたい。 ・ホームページの更新は、材料を集めることができない日もあるので、全教職員の協力を得て進める。
					・情報発信	100	100	100	
				保護者	・学校行事参加	90	89	93	
・情報発信			90		99	98			
・配布物			90		94	95			
地域人材の活用			教職員	・地域人材の活用	100	95	92	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員、保護者ともに高い数値を示している。今年度はスキー教室が中止となり、読み聞かせボランティアの活用もできなかったが、クラブ活動やおしゃべりルーム、人権教室、珠算教室、芸術教室、水の学習、ユリの学習、まち探検、福祉教育、避難訓練等で、たくさんの地域ボランティアの方の協力を得ることができた。 ・コロナ禍で学校から地域に関わりを求めていくことが難しい状況が続いているが、できる限りの対策を講じて、引き続き地域資源を活用する。 ・総合的な学習のカリキュラムを見直し、ふるさと学習の充実と地域資源の活用を図る。 ・教職員と保護者の数値が昨年より逆転している。おたよりやホームページ等でもっと情報発信をしていきたい。 	
		保護者		・地域人材の活用	100	91	94		
		危機管理	教職員	・登下校の安全	100	100	100		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も集団下校を行った。月2回の登校指導と学期に1・2回の集団下校指導を行ってきたが、児童、保護者ともに数値の低下が見られる。昨年までは、地震や大雪、獣出没等により、教員が下校に付き添うことが何度かあったが、今年度はそのような事態が無く、保護者の印象に残らなかったと思われる。 ・登下校の安全は、家庭、地域、学校が協力して守っていくものだが、「学校がどれだけのことをしたか。」の評価になりがちである。育成委員や見守り隊の活動を紹介しながら啓発していきたい。 ・時折ある児童間のトラブルに関しては、全体または学年ごと、地区ごとに適宜指導する。
				児童	・安全な集団登校	90	92		
			保護者	・登下校の安全	100	85	91		